

柳澤 健・赤坂清和(監訳)

エビデンスに基づく整形外科徒手検査法

市橋則明

(京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻)

徒手検査法に関するテキストは数多くあり、また同じようなテキストが出版されたのかと思います、あまり期待もせず本書を手にとった。本書を読み進めるうちに、今までのテキストとの違いに驚かされ、熟読してしまった。従来の整形外科の徒手検査法に焦点を当てたテキストは、診断の正確性を無視し、単に多数の検査を列挙したものがほとんどであった。そのため、どの程度その検査に信頼性があり、他の検査法とどう違うのかが不明確であった。このテキストを読んで最も驚かされたのは、各検査項目にその検査の検者間信頼性や検者内信頼性が記載されていること、さらにその検査が各疾患を検出できる感度と特異度が示されていることである。さらに、検査法に関しても最新の知見が記載されている。例えば、棘上筋テストの EMPTY CAN と FULL CAN の違いなども早くも取り入れてエビデンスが示されている。

本書の内容をもう少し詳しく紹介すると、1 章では

検査の信頼性、感度、特異度などの診断精度についてわかりやすく説明されている。また、2 章では研究論文の批判的分析なども紹介されており、最初の 2 章で根拠に基づく診断を支えている基本的概念について解説されている。その後の章では、顎関節から始まり脊柱、仙腸関節、股・膝・足関節、肩・肘・手関節の徒手検査法に関して数多くの方法を紹介している。すべての検査法の信頼性と有用性を統計学的に示しているのが本書の最も大きな特徴である。また、各章の冒頭では関連する骨・関節・靱帯・筋・神経に関する解説が記載されている。なじみ深い Netter 博士のイラスト図はすばらしく、他の解剖書をみるまでもなく、本書で解剖学の確認にも十分使えるものとなっている。

本書は、学生や教育者にとって各種検査法を学習・教育するために有用な参考書となるであろう。さらに、筋骨格系の障害を持つ患者の評価・治療を行う臨床家にとって、多様な検査の中からどの検査法を使うべきかを導いてくれる貴重なテキストとなり、いつも手元に置いておきたい 1 冊である。

●B5 判 530 頁

定価 7,560 円(本体 7,200 円+税 5%)

2007 年 エルゼビア・ジャパン・刊